

# 令和6年度札幌国際芸術祭実行委員会 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

## 1 次回札幌国際芸術祭の開催準備

2025年1月に次回札幌国際芸術祭（SIAF<sup>サイアフ</sup>）の開催方針の決定とディレクターを選任した。

### (1) 開催方針の決定

前回（SIAF2024）の検証結果を踏まえ、次回芸術祭では、SIAF2024の取り組みをさらにアップデート。冬季開催を継続しながら、札幌の独自性を生かし、札幌市民を中心に、誰もが参加・体験しやすい芸術祭の実現を目指す。

さらに、初回開催からの歩みをこれからの芸術祭に着実につなげるため、多様な団体や企業などと連携を深めるとともに、芸術祭を運営する事務局の体制を強化することで、芸術祭および事務局の持続可能性を確立していく。

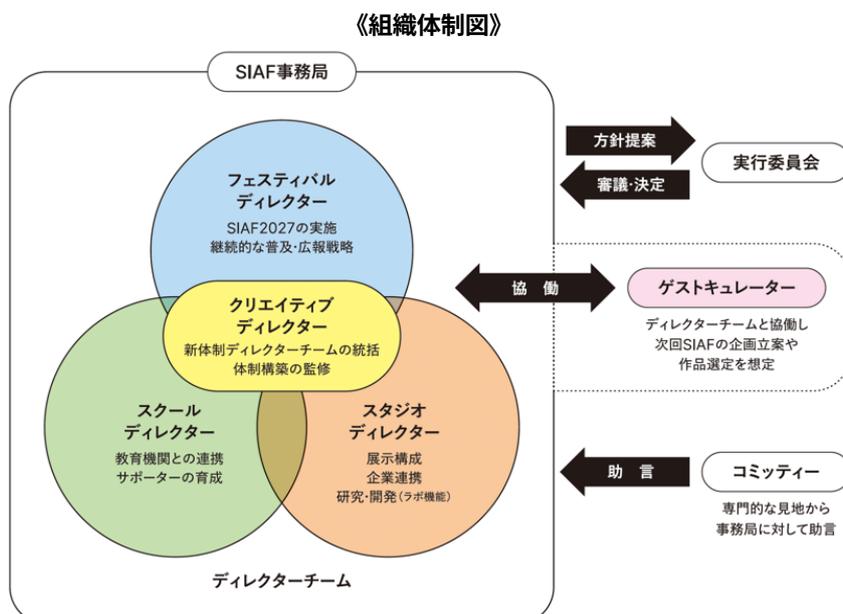
名称：札幌国際芸術祭 2027（略称：SIAF2027）

会期：冬季開催（2027年1月～2月）

### (2) ディレクターの選任

芸術祭の持続可能性を高めるため、企画体制として新たに「ディレクターチーム」を導入。

3年に一度のフェスティバルと開催年以外の恒常的な取り組みという特徴を生かし、事務局内の組織を「フェスティバル」「スクール」「スタジオ」という3つの枠組みに整理し、それぞれの部門に、これまで芸術祭に長らく関わってきた実務者（フェスティバル：細川麻沙美氏 スクール：漆崇博氏 スタジオ：丸田知明氏）をディレクターとして選任。さらにその体制構築を支えるアドバイザーとして「クリエイティブディレクター」を設置し、前回（SIAF2024）を牽引した小川秀明氏を選任。



## 2 SIAF 普及事業

芸術祭のさらなる市民浸透や SIAF2027 の開催に向けた機運醸成を図るため、SIAF2024 に引き続き、芸術祭を学校に見立て、新しい学びの場を作る体験型プログラムである「SIAF スクール」やさっぽろ雪まつりや札幌市内で開催されるアートイベントなどと連携した「札幌国際芸術祭 冬のプレイベント」などを実施した。

### (1) SIAF スクール

#### 出前授業

アートユニット「フジ森」が開発したウェブアプリケーションを活用し、プログラミングを活用した新しい創作活動を体験できる出前授業を札幌市内の小中学校で実施。SIAF2024 で実施した「自分だけの雪の結晶」を制作するプログラムのほか、新たに「自分だけの木」「自分だけの星」を制作するプログラムを展開。



《出前授業の様子》

実施校 : **16** 校 (厚別北小、厚別西小、稲穂小、栄町小、新川小、新光小、新琴似北中、新陵東小、中央小、豊園小、八軒北小、発寒東小、東川下小、みどり小、藻岩南小、百合が原小)

参加人数 : **1,176** 人

#### 教育喫茶

出前授業のプログラム開発のサポートや、芸術祭と教育機関とのつながりを築くため、教職員、教育の専門家、アーティスト等との定期的なミーティングを開催。さらに、SIAF2024 イニシアティブパートナーである株式会社ワコムと協働し、2025 年度に出前授業で展開する新たな教育プログラムを開発。



《ミーティングの様子》

- 第 1 回 | アーティストが開発！プログラミングで森を作る web アプリケーション体験会
- 第 2 回 | 未来の教育に必要なコミュニティとは！？
- 第 3 回 | ヨーロッパのマチ(社会)づくりをアルスエレクトロニカ 2024 から俯瞰する
- 第 4 回 | ユーザーインターフェースの特性から教育を考えるペンタブレットを活用したワークショップ体験会
- 第 5 回 | 「STEAM STUDY DAY in SCARTS 2025」に向けたキックオフ

定例 MTG : **5** 回実施 参加人数 : **44** 人 (延べ人数)

#### ふむふむプロジェクト (ボランティア活動)

SIAF2024 で活躍した「ふむふむサポーター」を対象に参加希望者を募集し、「札幌国際芸術祭 冬のプレイベント」の会場で来場者をお迎えし、展示作品をナビゲートしていただけるよう、研修会を数回実施。



《研修会の様子》

サポーター登録者数 : **230** 人 研修参加人数 : **13** 人

## (2) 札幌国際芸術祭 冬のイベント

### 札幌国際芸術祭 in さっぽろ雪まつり大通6丁目会場 (A) 25.2.4 - 11

SIAF2024 に引き続き、さっぽろ雪まつりとコラボレーションし、大通6丁目会場「雪のアート広場」に芸術祭が手がける2つのアート作品を展示。さらに、同会場で展示された本郷新記念札幌彫刻美術館による雪像彫刻も含めた、SIAF スクール「ふむふむプロジェクト」による作品ガイド (B) を実施。

#### Yukikaki Research Station 《屋外展示》

コロナ禍で中止になった SIAF2020 で展示予定だったニコラス・ロイ+カティヒッパによる作品展示。「札幌に雪が降らなくなったら、雪かき道具はどうなるの？」という気候変動を背景にした素朴な疑問から生まれたユニークな作品。また、関連プログラムとして、札幌市図書・情報館にて、制作アーティストとキュレーターによる「ユキカキ・リサーチ・ステーショントーク」(C) を実施。

#### みんなのコード [雪・木・星] 《特設ドーム型テント内》

SIAF スクール「出前授業」の成果を、アートユニット「フジ森」が一つの作品としてまとめ、それぞれの雪・木・星をドームテント内に投影。また、関連プログラムとして、小中学校でのワークショップの様子を含めた作品制作過程を紹介する映像を、札幌市図書・情報館のデジタルサイネージにて放映。

(A) 来場者数：67,704 人 (推計)

(B) 実施回数：32 回 参加人数：199 人 (C) 参加人数：34 人 (25.2.7 実施)



《Yukikaki Research Station》



《みんなのコード [雪・木・星]》



《ユキカキ・リサーチ・ステーショントーク》

### SIAF スクール 教育喫茶「STEAM STUDY DAY in SCARTS 2025」 25.2.9

教育喫茶で実験してきたプログラムを中心に、STEAM (科学、技術、工学、アート、数学を横断する学びの手法) をテーマにした「教育喫茶 特別編」を札幌市民交流プラザ SCARTS スタジオにて開催。

プログラム数：17 プログラム (5つのスペースで実施) 参加人数：65 人

### 冬のアートイベント周遊プログラム”みんなでウパシテ!!”

札幌市内で 2025 年 1 月～2 月に開催されたアートイベントと連携。市内中心部から郊外まで、多数のイベントを網羅したウェブサイトおよびガイドブックを作成し、市民や観光客が周遊しやすい仕組みづくりや、様々なアート関係団体や施設とのネットワーク構築に取り組んだ。

連携団体：18 団体 イベント数：約 30 イベント



《ガイドブック 表紙》

### (3) 世界冬の都市市長会連携企画

#### 札幌の冬を変える！札幌国際芸術祭の10年を振り返る 2024.12.16-19

2024年12月に札幌で開催された「第20回世界冬の都市市長会議」を記念して、札幌文化芸術交流センター SCARTS にて、「SIAFと冬」をキーワードに、これまで芸術祭で展開してきたプロジェクトの紹介展示を実施。展示素材は再利用可能なものを使用し、一部は、冬のイベント会場にも流用して展示を行った。



《展示の様子》

来場者数：415人

#### 市長会議でのプレゼンテーション

札幌コンベンションセンターで開催された市長会議において、札幌市における「冬を生かした文化芸術」と題して、9カ国20都市の「世界冬の都市加盟都市」の市長等に芸術祭に関するプレゼンテーションを実施。

参加人数：80人（推計）

## 3 広報プロモーション

### (1) SIAF2024 記録集の発行

#### 新しい芸術祭のつくり方 札幌国際芸術祭篇

SIAF2024の記録集を発行し、SIAF公式ウェブサイトで公開。6年半ぶり、初の冬開催となったSIAF2024の内容報告に加え、この芸術祭をどのようにつくっていったのかを「事務局視点」で振り返り、その過程を含めて紹介。



《記録集 表紙》

#### SIAF よもやま話『新しい芸術祭のつくり方』副読シリーズ

『新しい芸術祭のつくり方』の記録集に盛り込めなかった様々な事柄や、次回の芸術祭の構想などについて、芸術祭に関わるさまざまな方にお伺いしていくトークシリーズ。トーク内容はSIAF公式Youtubeチャンネルで公開し、その要約した内容を、『新しい芸術祭のつくり方』副読本としてSIAF公式ウェブサイトでPDFデータを公開。



《よもやま話 Youtube》

実施回数：全15回

## (2) SIAF ラウンジの活用

札幌市資料館内にある SIAF 情報発信拠点「SIAF ラウンジ」を活用し、観光客を含む来場者に芸術祭のアーカイブ情報（パネル展示、冊子、写真、動画等の記録資料）の提供や芸術祭に関連した書籍の紹介企画を行い、芸術祭の認知度向上を図った。



《パネル展示の様子》

ラウンジ年間利用者数：**7,159** 人（札幌市資料館 総来館者数 133,120 人）